

事務事業チェックシート

事務事業No **610** 事業名 **特別非常勤講師配置事業**

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		教育総務費	
	目		教育振興費	
	大事業		教育振興事業	
事項		特別非常勤講師配置事業		

[長期総合計画]

分野別目標	5	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち
政策	1	学校教育の充実
施策	3	小・中学校教育の充実
基本方針	3	今日的課題に対応した教育の推進

[まち・ひと・しごと創生総合戦略]

基本目標		
政策		
施策		

事業種別	継続	主な事務事業	
事業期間	H17 ~		
事業実施の根拠法令			
関連個別計画	和歌山市教育振興基本計画		
担当課・担当課長 (Tel)	教職員課	梅野 作治 (435-1196)	
関連課			

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
			○	
44の約束				○

1 事業概要及び実施内容

事業目的（「誰・何」をどういう状態にするための事業か）		事業内容								
事業概要	児童生徒の社会に対する興味・関心や将来の進路に対する意欲を高める。		専門知識を有する講師を学校に招き、ITや英会話による実践、読み聞かせや講演等を行う。特別非常勤講師の配置については、各校の配置要望の内容を吟味して時間調整のうえ、配分を行う。							
実施内容	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	小中学校の希望をもとに、特色ある幅広い多様な教育を行える外部講師を小学校45校、中学校9校に派遣した。		小中学校の希望をもとに、特色ある幅広い多様な教育を行える外部講師を小学校44校、中学校9校に派遣した。		小中学校の希望をもとに、特色ある幅広い多様な教育を行える外部講師を小学校45校、中学校9校に派遣した。		小中学校の希望をもとに、特色ある幅広い多様な教育を行える外部講師を小学校43校、中学校11校に派遣する。		小中学校の希望をもとに、特色ある幅広い多様な教育を行える外部講師を小中学校に派遣する。	

2 事業コスト

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	530	523	530	520	780	780	530		780	
伸び率 (%)	-	-	0.0%		47.2%		-32.1%		47.2%	
人件費	常勤職員	1,323	1,333	1,333	1,304	1,304	1,449	1,449	1,449	
	非常勤職員	0	0	0	0	0	0	0	0	
	小計	1,323	1,333	1,333	1,304	1,304	1,449	1,449	1,449	
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他										
一般財源 (税等)	530	523	530	520	780	780	530		780	
所要人数	常勤職員	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.19	0.19	0.19	
	非常勤職員	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0	0	0	
主な予算内訳		報償金 500千円		傷害保険料 30千円						

3 目標及び実績

		指標名及び達成状況				平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
活動指標	非常勤講師配置人数					年度目標値	80	80	80	70	80
						実績値	70	68	79		
	単位	人	全体目標値	80	全体目標達成度	98.8%	年度別達成度	87.5%	85.0%	98.8%	
							年度目標値				
成果指標	非常勤講師配置時間					年度目標値	200	200	300	200	300
						実績値	200	200	300		
	単位	時間	全体目標値	300	全体目標達成度	100.0%	年度別達成度	100.0%	100.0%	100.0%	
							年度目標値				
						実績値					
						年度別達成度					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	平成28年度は予算削減のため、事業内容を縮小する。これ以上予算を削減することになると、事業そのものの運営が困難になる。
「見直し」 「改善」案	平成28年度は予算削減となるが、学校現場から要望を汲み取り、幅広い分野において専門的知識を有する講師の配置を充実させる。